

案件概要書

2013 年 10 月 29 日
国際協力機構 東南アジア・大洋州部
東南アジア第六・大洋州課

1. 案件名（国名）

国名：トンガ王国

案件名：国内輸送船用埠頭改善計画（The Project for Upgrade of Wharf for Domestic Transport）

2. 事業の背景と必要性**(1) 当該国における道路セクターの開発実績（現状）と課題**

南太平洋の王国トンガ（陸地面積 720km²、人口約 104,000 人）は大小 170 余の島々から成り、南からトンガタブ、ハアパイ、ババウ、ニウアスの 4 つの諸島を構成している。この内トンガタブ諸島は、主に首都ヌクアロファのあるトンガタブ島（面積 259km²、人口約 71,000 人）とその南東約 40km に位置するエウア島（面積 87km²、人口約 5,000 人）から構成され、全人口の 70%以上が居住している。このような地理的条件の下、当国の国内輸送は船舶に依拠している。

トンガタブ島ヌクアロファ港は、主に国際貨物船や大型国内輸送船が使用するクイーン・サロテ埠頭、国際旅客船が使用するブナ埠頭、小型国内輸送船が使用するファウア埠頭から成っており、当国の国内輸送船は現状船体の大きさによって異なる埠頭を使用している。このような状況の下、当国における島嶼間輸送の中心的役割を担っている国内輸送船オトワンガオファ号（我が国の 2008 年度無償資金協力にて調達）等の大型船舶は、クイーン・サロテ埠頭に接岸し、そのコンテナヤードにて乗客の乗降を行っているため、安全性が危惧されている。また、国際貨物と国内貨物の荷役手続きが異なる中、2 種類の荷役手続きがクイーン・サロテ埠頭コンテナヤードにて同様に行われているため、同港の荷役効率は悪い。当国では、今後貨物の取扱量増加が想定されており、荷役効率の向上や旅客の安全性確保を含む機能的な港湾運営が喫緊の課題となっているため、国際貨物船用埠頭と国内旅客・貨物（国内輸送）船舶用埠頭をそれぞれ独立させ、船舶の運用目的に応じた埠頭整備を行う必要がある。

既存のヌクアロファ港ファウア埠頭は、規模的にオトワンガオファ号のような大型船舶は接岸することはできず、旅客用のターミナルや荷役を行う乗降ランプも整備されていない。ファウア埠頭を大型輸送船を含む国内輸送船専用の埠頭とするためには、埠頭の拡張、港湾施設の改善が必要である。加えて、停泊中の船舶をサイクロンによる高波から保護する胸壁の設置も安全性確保のために必要である。

林業地であるエウア島には、島内に唯一のオホヌア港があるが、同港ナファヌア埠頭の施設ではオトワンガオファ号等の大型船舶の入港・停泊ができず、現在は小型の船舶により旅客・貨物の輸送を行っているため、運搬効率は悪い。同島で伐採された木材を効率よく運搬し、荷役効率を向上させるためには、オトワンガオファ号等の大型輸送船が接岸できるように港湾施設を改修する必要がある。

(2) 当該国における港湾セクターの開発政策と本事業の位置づけ及び必要性

当国が 2010 年に策定した「トンガ戦略的開発構想 2011-2014」では、「公平かつ公正で進歩的な社会の開発と推進」することを目標とし、そのための達成手段の一つとして、「インフラ開発と維持」を掲げている。また、当国が PRIF(Pacific Region Infrastructure Facility: 大洋州のインフラ支援に関する援助協調の枠組み)の協力のもと 2013 年に策定した「国家インフラ投資計画 2013-2023」でも本事業は優先事業の一つとされている。本事業は、首都のあるトンガタブ島及び国内唯一の林業地であるエウア島の国内輸送船用埠頭を改善するものであり、当国の経済発展を図る上で重要性が高い。また、本事業完了後は、オトワンガオファ号が両港を使用する計画となっており、過去の無償資金協力事業との相乗効果も期待される。

(3) 港湾セクターに対する我が国の援助方針

我が国は、当国に対する国別援助方針において経済活動の拡大を重点課題とし「経済インフラ整備・維持管理能力強化プログラム」を展開することとしている。また、JICA の大

洋州地域国別分析ペーパーでも、海運インフラ整備を重点課題の一つに挙げており、本事業はこれら方針、分析に合致する。我が国の同セクターに対する援助実績としては上記のとおり、2008 年度無償資金協力「離島間連絡船建造計画」にてオトワンガオファ号を整備している。

(4) 他の援助機関の対応

豪州の支援により、1986 年にクイーン・サロテ埠頭の拡張整備が行われている。1999 年にはアジア開発銀行（ADB）の借款により、トンガ港湾公社ビルの建設、浚渫を含むクイーン・サロテ埠頭港湾施設の整備、ファウア埠頭の浚渫と港湾入口の拡張、その他離島の港湾の改修が行われている。2012 年にはブナ埠頭が中国の支援により整備されている。また、世銀は運輸セクター支援として、港湾専門家の派遣や各主要島港湾へのナビゲーション設備、保安設備の整備を行っている。

3. 事業概要

(1) 事業の目的

本事業は、トンガタプ島ヌクアロファ港ファウア埠頭、及びエウア島オホヌア港ナファヌア埠頭の既存の港湾施設を拡張・整備することにより、国内輸送及び荷役作業の効率化を図り、もって当国の経済発展に寄与することを目的とする。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

トンガ王国トンガタプ島（ファウア埠頭）及びエウア島（ナファヌア埠頭）

(3) 事業概要

1) 土木・施設工事

【ファウア埠頭】浚渫、埠頭の幅及び延長（幅 10mX 長さ 130m）、
旅客ターミナルビル建設、胸壁、乗降ランプ設置等

【ナファヌア埠頭】浚渫、港湾口の拡張、乗降ランプ設置等

2) コンサルティング・サービス（基本設計、詳細設計、入札補助、施工監理）

(4) 事業実施体制

事業実施機関： トンガ港湾公社（ファウア埠頭）、社会基盤省（ナファヌア埠頭）

(5) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

1) 環境社会配慮

① カテゴリー分類： B

② カテゴリー分類の根拠：本事業は、「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010 年 4 月公布）に掲げる道路セクターのうち大規模なものに該当せず、環境への望ましくない影響は重大でないと判断され、かつ同ガイドラインに掲げる影響を及ぼしやすい特性及び影響を受けやすい地域に該当しないため。

2) 貧困削減促進等：特になし。

(6) 他スキーム、他ドナー、他案件等との連携：PRIF が当国政府に協力し「国家インフラ投資計画 2013-2023」を策定しており、本事業も優先事業の一つとされている。PRIF との本事業の関連データの共有や、実施機関に対する研修等技術協力の実施等について連携を検討する。

(7) その他特記事項：特になし。

4. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

(1) 類似案件の評価結果

ミクロネシア「ウエノ港整備計画」の事後評価等では、船舶の運用目的別に岸壁を整備したことにより、港湾機能の混在が解消され、荷役効率が向上した点が評価された。

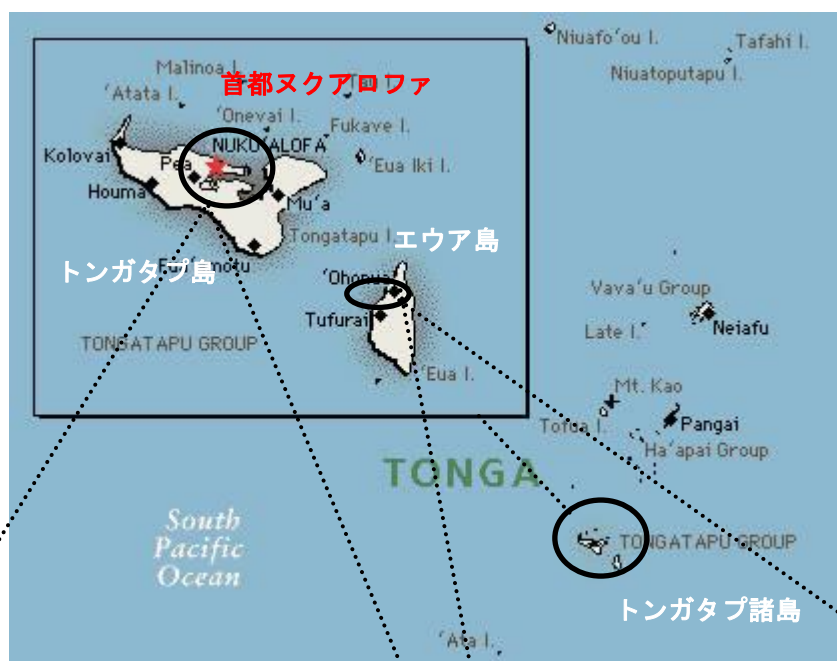
(2) 本事業への教訓

本事業では、将来的な貨物取扱量の予測と運航船舶の分析を行い、トンガ国の港湾計画を十分確認の上、適切な規模及び各港湾機能が混在しない港湾施設改善計画を立てる。

以上

〔別添資料〕地図

プロジェクトサイト位置図



トンガ王国



ヌクアロファ港



才木又了港